

の大山の麓に、ペットボトルの大規模な工場を作って全国に向けて出荷していますけど、そういう産業を立地するとかですね、食材のメーカーとか、食品加工とかですね、そういう企業立地がむずかしいと言われる時代でもかなりあるんです。それは環境面だと思うんです。

筑紫氏：私の故郷は、大分県の日田という所です。以前は九州で供給するビールの製造会社は北九州市にあったんですよ。率直に言ってビール工場は先進工業地帯にあったんですが、ビールが新鮮でおいしいイメージにならないので、ついに私の故郷に引越してきて、ビール工場を作りました。そこは水だけは豊富ですから、今、九州一円のサッポロビールは私の郷里で作っているんです。そうすると、価値がきれいにひっくり返った例だと思います。(中省略)

片山氏：実は逆転の発想という事で今思いついたんですけど、日本の農業は国際競争力が全くないと言われていたが、そんな事はないんです。日本の農業、農産物であっても国際競争力を持って堂々と輸出している品目はあるんです。今年の6月に鳥取県で音頭を取って、日本の農産物で輸出をしている物、これから輸出をしようと思っている物「集れ」、と言って集まってもらったんです。「静岡のみかん」「青森のりんご」とか、実はいっぱいあるんです。我々北米に輸出していてカナダで輸入制限を受けているんです。アメリカは非課税商品あるんです。そう言う事を私達は農林省とか外務省に言うんですけど、全く聞く耳を持ってなかったです。ところが最近やっと中央政府も心を入れ替えて輸出についても農産物輸出を促進しようという事になったんです、まあ実はこういう逆転もあるんです。(中省略)

筑紫氏：私はこの2年来、ゆっくりと自分の番組を含めて一つのテーマをやっているんです、「スローライフ」という考え方です。つまり今滔滔と進んでいるのはグローバル化という物の動きです。(中省略)
グローバル化の初期の体現というのは今でもファーストフードですね。マクドナルドでありコカ・コーラである訳です。そうではなくて「周りに取れている物を食べるよ」という運動です。奇しくも何も関係ないのに日本の町作り、町おこし、地域活性の中で「地産地消」というものが出てきました。ここで又最初に言った逆転の発想だと。(中省略)

片山氏：鳥取県も「地産地消」という言葉を使っているんですが、「鳥取県ルネッサンス運動」というのを提唱して実践しているんです。これは広い意味でのライフスタイルの変更とか、価値感の見直しとかそんな事なんです。(中省略)

筑紫氏：片山さんがおっしゃった、人間がそれぞれどういう価値感を持つかという事はすごく大事で、(中省略)例えば鳥取県に来てみれば、ここ鳥取県はいい所じゃないですか。つまりその良さを、何か遅れているだとか、自分達の側にもコンプレックスを持ち過ぎの部分日本人の中には多いと思うんですけど、物指しを変えてみれば全く違う物が見えるということ、そこが今日のテーマでやりたかったことだと思いますが、改めて強調したいと思います。

片山氏：今日は本当に大勢の皆様にも来ていただいて、ありがとうございます。我々鳥取県は、実は61万5000人で日本の中で一番小さい県です。今、鳥取県でこの地域から日本の中で一つのモデルになる様な、そういう地域作りをやりたいなと思って、実は頑張っている所なんです。そういう鳥取県に来ていただいて現場を見ていただいて話を聞いていただいた事を、私達は大変ありがたいと思っています。是非これからも鳥取県の良き理解者、良きファンになっていただければと思います。ありがとうございます。

